助成・寄付寄贈報告

◆ みつばちを利用されている保護者様より　おもちゃ、子ども用品 他

厚く御礼を申し上げます

研修会・講演会のご案内

◆ 定期研修会　　参加費：Be サポ会員無料、非会員 1,000 円

参加資格：スクールカウンセラー、支援員、教員など、守秘義務を課せられた専門職の方が参加できます。初めて参加される方は Be サポートまでご連絡ください。

①「子どものそだち研修会」　1/16、3/20　　18:30～21:00　　奇数月水曜日開催　　場所：プラサヴェルデ

子どもの育ちを支援する専門職による事例検討勉強会です。支援者ネットワークとしても生かされます。

②「東部アセスメント研究会」　2/20　　18:30～21:00　　偶数月水曜日開催　　場所：プラサヴェルデ

心理検査の事例検討を中心とした研究会です。参加者同士で意見交換をしあい、学びを深めます。

Be サポート業務一覧

相談・カウンセリング事業

カウンセリング、プレイセラピー、各種心理検査

医療・保健・福祉・教育等 地域機関への協力

静岡県ひきこもり支援センター居場所設置運営事業
伊豆市・伊豆の国市・清水町 母子保健事業
（乳幼児健診・発達相談・療育教室）
函南町・清水町・伊豆市教育委員会
（就学支援・特別支援教育・巡回相談）
伊東市・富士市 市民メンタルヘルス相談
県および市町主催ゲートキーパー養成事業
県立高校スクールカウンセラー・学校支援心理アドバイザー
NPO 法人静岡犯罪被害者支援センター
社会的養護関係施設第三者評価事業

不登校・ひきこもり支援事業

伊豆圏域不登校ひきこもりサポート「とっこ」

被災者支援事業

東日本大震災被災者支援活動「OHANA」

企業・事業所への支援事業

メンタルヘルスカウンセリング
企業研修会への講師派遣

研修・啓発事業

専門職対象の定期研修会開催
一般市民対象の講演会開催

児童発達支援事業

障害児・者総合サポートセンターみつばち
（児童発達支援「あんず」・放課後等デイサービス「かりん」
保育所等訪問支援
指定計画相談支援・指定障害児相談支援）

平成 30 年 9 月～12 月　　依頼協力事業

◆ 伊東市ゲートキーパー養成研修会講師派遣　　9 月 27 日、10 月 4 日　　於：伊東市役所
◆ 裾野こころのボランティアの会勉強会　講師派遣　　12 月 1 日　　於：裾野市福祉保健会館
◆ 伊東市子育てネットワーク・ゆう研修会　講師派遣　　12 月 3 日　　於：伊東市健康福祉センター

Be サポート　会員募集

NPO 法人とは利益を目的とせず、社会や地域のニーズを追求し応える活動を行う団体です。臨床心理士を中心とした有志で Be サポートを設立しました。専門的な視点から地域のさまざまなこころの問題に取り組んでいます。現在、正会員 56 名、賛助会員 4 名、学生会員 1 名（2018.12 時点）で活動しております。私たちの活動を応援してくださる会員の方を募集しております。会員の方へは会報誌の送付、研修会や講演会の参加費用免除が適用されます。また地域で働く援助職の方には、ネットワークづくりとしても活用していただいております。会員登録を希望される方は Be サポート事務所までご連絡ください。

特定非営利活動法人　臨床心理オフィス　Be サポート

クローバー通信

2019 年 1 月 15 日発行

NPO 法人 臨床心理オフィス Beサポート
〒4100056 沼津市高島町 29-11 盟萌ビル 201
Tel/Fax　055-925-1701
Mail　be-sapo@mail.wbs.ne.jp
HP　http://be2011.jimdo.com/
発行責任者　皆川行寛

新 年 の ご 挨 拶

Be サポート理事長　皆川行寛

明けましておめでとうございます。旧年中は、私たち NPO 法人臨床心理オフィス Be サポートに対し、ご指導・ご支援を賜りありがとうございました。

あっという間に 1 年が過ぎ去り、年齢を重ねるとさらにその速度が速まる感じがします。今年は、法人を立ち上げて 8 年、5 月には 9 年目に入ります。法人は、東日本大震災の復興と共に歩んでいることになります。

Be サポートのスタッフは、当初 7 名から始まり、現在は 20 名を超えています。業務をあげれば、心理カウンセリング、心理アセスメントをはじめ、医療・保健・福祉・教育等、地域機関への協力ほか、この 8 年間で事業規模は大幅に拡大しました。

県・市町の仕事としては、静岡県ひきこもり支援センター居場所設置運営事業（「なごみ」）、伊豆市・伊豆の国市・清水町の母子保健事業（乳幼児健診・発達相談・療育教室）、函南町・清水町・伊豆市教育委員会への協力事業（就学支援・特別支援教育・巡回相談）、伊東市・富士市の市民メンタルヘルス相談、県立高校スクールカウンセラー・学校支援心理アドバイザー、など多岐にわたります。加えて昨年は、伊豆市の協力のもと、法人独自で伊豆市生きいきプラザ内に不登校ひきこもり居場所事業「とっこ」も開設しました。

また、児童発達支援事業として、26 年度に「障害児・者総合サポートセンターみつばち」を立ち上げました。児童発達支援「あんず」、放課後等デイサービス「かりん」では、心理的専門療育を行い、好評を得ています。保育所等訪問支援も行い、幼児教育の現場との連携を大切にしています。

さらに、相談支援事業所も合わせて立ち上げ、指定計画相談支援・指定障害児相談支援を行い、本人・家族の生活を総合的にサポートしています。

このように、自治体にはもちろん、市民の方々にとっても信頼されているという自負があります。今年は行政との連携をさらに深め、さらに信頼される法人になるため、職員チーム一丸となって努力するつもりでおります。内部的には、昨年から進めている職場環境の整備をさらに進めること、また規約整備など法人の土台作りに着手しようと考えています。

最後に、私たち NPO 法人臨床心理オフィス Be サポートを支えてくださる皆様に感謝し、皆様のご多幸とご健康とを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

活 動 報 告

伊豆圏域の不登校ひきこもりサポート「とっこ」開設記念特別講演会『不登校ひきこもり講演会＆相談会』

9月29日土曜日、修善寺総合会館にて「不登校ひきこもり講演会＆相談会」を開催いたしました。この催しは、「伊豆圏域の不登校ひきこもりサポート とっこ」の開設を記念して行ったものです。講演会では、当法人の顧問でもある静岡大学教授　江口昌克先生をお招きし、「ひきこもる本人と家族のこころ―回復に向けてできること―」と題してお話いただきました。

お話の中では、社会の価値観が多様化しているのと比例して、ひきこもる要因も多様化しているが、「防衛」としてのひきこもり、「休養」としてのひきこもり、「自己探索」としてのひきこもりなど、本人なりのひきこもる「意味」を考えることがまずは大切であることが話されました。そして、外出や就労をゴールとするのではなく、家庭の中でどうしたら元気になれるかを探すことが大切で、「これをするとなんとなく気分が変わること」「何となく楽しくなること」をやってみて自信が回復する体験のつみ重ねをしていく必要があるということでした。居場所や相談機関の支援者としても、家族以外の人間関係の相手として自分自身がモデルの一人となることを意識し、本人の試行錯誤をおおらかに見守りながら、本人が何らかの気づきや変化を自分の中に感じ、自分自身の葛藤に折り合いをつけるのを辛抱強く待つ姿勢が大事なのだと、お話いただきました。江口先生が関わられた当事者の方々の事例をたくさん盛り込んだ大変興味深いお話しに、「本人の気持ちが少し理解できた気がします」「自分自身の子どもの接し方を反省しました」などの感想をいただきました。雨の中ご来場いただいた当事者のご家族、教育現場、支援機関の方々にお礼申し上げます。

その後の相談会には、6組のお申し込みがありました。短い時間でのご相談でしたが、現在の状況をうかがい、助言や地域の資源をご紹介させていただきました。

毎週金曜日午後に伊豆市生きいきプラザ内で開設している「不登校ひきこもりサポート とっこ」では、現在交流スペース（居場所）に2～4名の方にご参加いただき、個別相談も随時ご利用いただいています。ご相談のある方、居場所利用希望の方は、Beサポートまでお問い合わせください。

県ひきこもり支援センター居場所設置運営事業「なごみ」

家から出たいと考えているTさんが体験に来ています。また、農業で自立したいと考えているOさんは、農業の研修のため、しばらくの間九州に行ってきました。

ちょっと早めのクリスマス会を開き、カレーを作り、午後は人生ゲームをしてまったりと過ごしました。家では全く家事をしないというTさんは、スタッフに勧められてじゃがいもの皮むきをして下ごしらえをしてくれました。

12月の最終日にはOさんがやってきて、九州のお土産とお土産話に花が咲きました。みんなで一緒に大掃除をしました。利用者さんはお掃除や障子貼りなどもほぼ初めての体験でしたが、丁寧にやってくれて部屋がきれいになりました。

ひきこもりの当事者の方が家から外に出る事はたいへん難しいようです。当事者の方がたの目標はそれぞれ違うと思います。家が居心地悪いと感じ居場所に来る方や、社会経験が少ないので、就労を希望していても自信がない方など、ステップアップのためにぜひ「なごみ」を利用してもらいたいと思います。

なごみで作ったクリスマスカード

活 動 報 告

東日本大震災被災者支援事業 OHANA

東日本大震災の被災地から遠く離れた静岡県で暮らす子どもたちのために、2012年から始めたこのクリスマス会。今年で7回目になります。小学生だった子どもたちも今やみんな中学生になり、部活や地域活動で最近はOHANAの活動に参加が難しくなり、また、サンタのプレゼントにはしゃいで喜ぶ年齢でもなくなってきました。今年の開催はどうしようかとギリギリまで悩みましたが、ぜひ参加したいと言って下さる方がいて、今年はみつばちの施設を使ってアットホームに行いました。

すると、ずっと参加したかったのに参加できなかった双子の中学生が、なんと急に部活が休みとなり、何年かぶりに参加してくれました。すっかりお兄ちゃんの顔になっていることにびっくりしましたが、すぐにうち解けてお話に花が咲きました。スタッフ手作りのオードブルやポトフ、参加者からの差し入れもあり、クイズにゲームに、少人数ながら楽しい時を過ごせました。

楽しいながらも「あのときは大変だった」と震災のことを話すのを聞き、他ではもう話題にできないことをOHANAだから話せるのだろうと感じました。中学生への学習支援も継続していますが、OHANAだからこそ出来ることは何かを考えながら、次の活動を考えていきたいと思います。

他団体の勉強会での講師活動

今期は、他団体の研修会での講師依頼を二つ頂きました。

一つは、伊東市の「ＮＰＯ法人伊東市子育てネットワーク・ゆう」の相談員対象の研修会です。「ゆう」さんは、未就学児のいるご家庭へボランティア相談員が定期的に訪問し、お母さんのお話を聞いたり家事を一緒に行う訪問型支援を行っているそうです。研修では、傾聴の技法や実習、お話の聴き方の注意点、うつ病のアセスメントなどについてお話しさせていただきました。

もうひとつは、裾野市の「裾野こころのボランティアの会」の会員対象の勉強会です。普段は市民を対象に自殺予防活動などを行っていらっしゃいますが、近い将来、ひきこもりの方や悩みのある方のためのサロンを開きたいと計画しているそうです。そこで、「なごみ」「とっこ」二つのひきこもり居場所活動の経験を踏まえ、ひきこもりの理解、支援の基本、居場所で出来ることやスタッフの役割、必要な心構えなどをお話しさせていただきました。

どちらの団体さんも、熱心にお話を聞いていただきとてもうれしく思いました。地域の方が安心してお話をできる場が広がることは、とても大切なことと思います。蛇足ではありますが、また自戒でもあるのですが、スタッフの気持ちが強ければ強いほど、侵入的なハイペースな関わりになりがちで、当事者の方が引いてしまったり負担に感じることも出てきます。先を焦らず、成果を求めず、のんびりと穏やかに受け止めて見守る支援ができるようにしたいものです。

障害児・者総合サポートセンター「みつばち」

～『あんず』のクリスマス会 ～

大きい子のクラスでは、体育館に『福朗のよみもの屋』さんをお迎えし、絵本や小さな劇を観ました。劇の中から本当にサンタさんが飛び出して来て、みんなびっくり！そして笑顔☺「場所取りゲームやトナカイのシールまき」を一緒にやり大はしゃぎでした。

小さい子のクラスは、お部屋でクリスマスツリーをみんなで飾る所からスタート。インスタ映えのスポットが出来ました♪♪楽器遊びや玉入れをして盛り上がりました。（スタッフ記）

～『かりん』のクリスマス会 ～

今年は初めての試みとして、より多くの子供たちに参加してもらえるよう、土曜日にクリスマス会を開催しました。参加者はみつばちを開所して以来、最も多い20名。場所は、サンウェルぬまづの健康増進ルームをお借りしました。

今年の目玉は、沼津奇術研究会の方によるマジックショーです。数々のマジックを食い入るように見ている子供たち。火やハトが出てくると、感嘆の声をあげ大喜びでした。

そのあとは、スタッフが市販のお菓子で工夫して作成した、トナカイとサンタクロースが載ったロールケーキを食べ、皆川サンタからプレゼントをもらい、とても楽しいクリスマス会となりました。保護者の方の参観もあり、子供たちの様子を見ていただけたことも、大変良かったのではないかと思います。（スタッフ記）